

〔普及の現場から〕

耕畜連携で肥育にイネWCSを活用
～農事組合法人 伍協牧場～

勝英農業普及指導センター

1 はじめに

勝田郡奈義町は畜産の町であり、同町には県下でも有数の規模を誇る、協業経営の農事組合法人「伍協牧場」があります。

同町では近年、耕畜連携によるイネWCSの生産利用が盛んになってきています。当初は酪農での利用が中心でしたが、最近、肉用牛（肥育）での利用気運が高まり、伍協牧場でも平成21年度から利用を始め、取り組みを拡大しているので、その状況を紹介します。



牧場事務所と看板

2 牧場の概要

農事組合法人「伍協牧場」（代表理事 豊福雅人）は、4戸の肥育農家が昭和49年4月に立ち上げた、協業経営牧場です。当初は、構成農家への肥育素牛供給の牧場（一部肥育仕上げまで）として開始しましたが、現在は素牛導入から肥育まで仕上げる経営を行っています。

経営内容は、ホルスタイン、和牛、F1を合わせて820頭の肥育（規模内訳は表1のとおり）と堆肥生産販売です。

表1 経営規模

| 肥育牛種類 | 規模(頭) |
|--------|-------|
| ホルスタイン | 300 |
| 和牛 | 150 |
| F1 | 370 |
| 計 | 820 |

3 取り組みの内容

同牧場は、ホルスタイン肥育牛を生協とのタイアップで「コープおがやま牛」として販売しています。

平成20年度にメンバーが個別経営の肥育前期牛でイネWCSを給与実証し牛の嗜好性も良かったことから、購入乾草の代替になると判断しました。また、地域で生産された粗飼料（イネWCS）を給与した「コープおがやま牛」を生産してほしいとの生協の提案もあり、肥育全期間に給与しても肉質に影響が少ないと



ホルスタイン肥育牛へのイネWCS給与状況

されているホルスタインにイネWCSを給与することにしました。

21年度は町内の耕種農家から518ロールを確保し、11月下旬から3月まで給与しました。22年度は805ロールを確保し給与しています（利用期間は11月20日頃から6月まで）。給与量は表2のとおりで、肥育前期のスーダン乾草、肥育後期のイタリアン（実とり）乾草の代替として給与しています。

豊福代表理事は、肉質については、若干肉色が濃くなる傾向があるものの、枝肉に張りが出てきたとの感触を持っています。23年度は1,000ロールの確保を見込んでおり、耕畜連携によって地域で生産されたイネWCSをさらに活用し、「コープおかやま牛」の生産を進めたいと話しています。

4 今後の課題

同牧場では、現状では7月から10月の4ヵ月間はイネWCSが利用できていません。1年を通じた利用が課題であり、量的な確保を図ることはもちろんのこと、夏場のロールの保存対策が必要です。

当地域では、コントラクター組合が昨年度からラップの巻き数を従来の6層から8層に増やしたり、畜産農家の希望に応じて乳酸菌を添加するなど調製技術の改善を図っています。同牧場は、22年度は乳酸菌添加されたものを確保しており、この6月の気温条件下でも品質が維持されています。今後も乳酸菌添加したものを利用していくとのことです。

5 最後に

同牧場の構成員は、現在は3戸となっています。その3戸とも最近、後継者が就農し、牧場経営に加わっています。同牧場の発展はもとより、これからも耕畜連携の取り組みが続けられることが期待されます。

表2 ホルスタイン肥育の飼料体系(ノ頭・日)

| | 肥育前期 | 肥育後期 |
|-------|-----------|------------|
| 濃厚飼料 | 2~7kg | 7~12kg |
| イネWCS | 4.4kg | 2.2kg |
| 購入乾草 | スーダン2.4kg | イタリアン1.2kg |

注1)前期は7~12ヵ月齢、後期は13~20ヵ月齢

注2)購入乾草はイネWCSを利用しない時の給与量